

国際教養学部(小論文) 問題解説

□■ 出題意図・評価方法・評価ポイント

本問は、「共生」の意義を人々の支え合いと関連させつつ、今後社会はどのように対応すべきか、というテーマに結びつけて、論述問題として総合的な能力を問うものである。

- (1) 論説文の読解力と、基本的概念を正確に理解して記述する力を問う設問である。
共生には手段としての共生と目的としての共生が存在するが、それらは規範として押し付けられるものではなく自発的な営みである、ということ表現していれば正解とする。
- (2) 文章の読解力を前提に、当該箇所を整理して説明する力を問う設問である。
従来の日本型社会保障では、信頼関係が社会に行き渡りにくく「支える側」同士の協力関係も希薄であった、政府に対する信頼も欠落していた、「支える側」と給付対象となる「支えられる側」とが分断されていて接点が希薄である、などの点について本文中の説明を用いてわかりやすく文章化できていれば正解とする。
- (3) 主体的に問題を発見する力や洞察力、そしてそれを論理的に記述する文章構成力を問う設問である。具体的に指示された事例を理解し、「社会的ジレンマ」に関して立場や意見の違いがある事柄をどのように考え問題解決していったらよいか、自分なりの考えをわかりやすく述べているかどうかを評価ポイントとする。

□■ 受験生へのメッセージ

日頃から新聞を読む習慣を身につけ、社会問題や国際問題などに幅広い関心を持つように期待しています。論説文を読んで、その論旨を正確に理解して自分なりの意見をまとめることは、一朝一夕にできることではありません。

有名な文学作品や興味のある分野の書籍・雑誌を読むのは大いに結構ですが、教科書以外にも日常生活の中で論理的な文章に触れるように意識してみてください。客観的な事実に基づいた論述であるのか、論理に飛躍はないのか、といった観点から批判的に読むことを心がけ、自己の意見を簡潔にまとめる練習をすると良いでしょう。国際教養学部の多彩な専門分野を学ぶ下地として、広く社会に関心を持ち、読書の習慣のある学生を歓迎します。